玉名の遺跡
シリーズ③

玉名平野遺跡群

【お問い合わせ】
玉名市教育委員会
文化課文化財係
TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp

～くまもと県北病院建設に伴う発掘調査～

●調 査 地：玉名市玉名字水町
●調査期間：平成30年8月9日～平成31年1月31日
●調査面積：6,890㎡

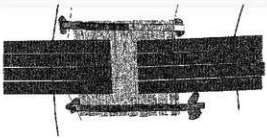
遺跡は、菊池川右岸の平野部に位置しています。周辺におけるこれまでの調査では、弥生時代以降の水田跡などが確認されています。

平成30年度、くまもと県北病院建設に伴う発掘調査を実施し、古代の水田跡、溝、木橋、木製農具などが出土しました。

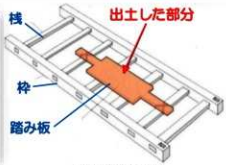
■古代　～ 玉名平野に、広がってゆく水田… ～

木橋の出土状況

木杭列の出土状況



水田付近から出土した大足



大足の復元図
（伊藤隆夫他編「木の考古学」より）

木橋の復元図

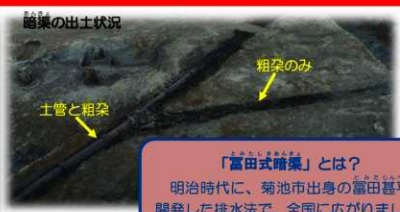
「大足」とは？
田下駄の一種で、刈った草を水田の中に踏み込む農具じゃ。これは、弥生時代から昭和30年頃まで使われておったんじゃ！

調査では、古代末期（平安時代末）の水田跡17区画とそれらに並行する溝が確認されました。溝には長さ約2.5m、幅約1.5mの木橋が残存していました。水田に伴う橋としては、全国的にも出土例が少なく、構造がわかる例としても大変貴重です。また、畔や溝の崩落を防止するために打ち込まれた木杭列も確認されました。

木製農具の大足も5点出土しており、玉名平野における古代の水田耕作の状況がわかってきました。

■近代　～ 湿田から乾田へ、新たな排水技術の導入 ～

陶製土管（明治時代）



暗渠の出土状況

「冨田式暗渠」とは？
明治時代に、菊池市出身の冨田甚平が開発した排水法で、全国に広がりました。

「暗渠」は、水はけの悪い水田に竹の束などを埋め、水を浸透させて排水するものです。明治になると土管に改良されますが、このような暗渠の代表例が「冨田式暗渠」です。調査で検出した暗渠は、土管のまわりに粗朶（木の枝など）が敷き詰められているものと、粗朶だけの暗渠が接合していました。